

【RC-5 推奨作成の経過 記入方法】

推奨決定に採用した各研究の強みと限界、定性的・定量的システマティックレビューの結果を「日本語として流暢な文章で記載する」（詳細は **6.4 節** 参照）。

1. CQ が重要な臨床課題である旨の背景を記載する。

2. エビデンス評価

アウトカムごとにシステマティックレビューを行った過程と結果（説明）を記載する。

3. 益と害のバランス評価

システマティックレビューで得られた望ましいアウトカムと望ましくないアウトカムのバランスを比較検討した内容を記載する。

4. 患者・市民の価値観・希望

患者・市民の価値観・希望の多様性や不確実性について検討した結果を記載する。

5. 資源利用と費用対効果

個人の立場（individual perspective）の場合、5. には患者の自己負担分、その他患者の立場から見て重要な資源利用の情報を記載する。6. には公的医療の立場から費用対効果のエビデンスの評価を行った場合は、その結果概要を記入する。

集団の立場（population perspective）の場合、5. の最下段に資源利用および費用対効果の情報を記載する。Individual perspective または population perspective のいずれの場合においても、保険診療であるか否かは極めて重要な情報である。保険診療でない介入方法については、それを明記する。

6. 推奨がどうしても決定できないときは、まれに「明確な推奨ができない」とする場合もある。この場合、その経過と討論内容を本文中に記載する。

7. 今後の研究についても考慮する

・今後の研究を用いることが適正か検討し、提示する。

提示された今後の研究は、今後臨床研究として推進され、次回改訂時には、エビデンスとして活用されることが期待される。

・今後の研究が推奨される場合の記載方法に注意する。